



# YNU FDニュースレター

2012年12月 特別号

横浜国立大学 大学教育総合センター FD推進部

## 平成23年度 授業評価アンケート実施状況・分析

本「特別号」では、平成23年度春学期および秋学期に行った「学生による授業評価アンケート」（以下、授業評価アンケート。）の結果について報告いたします。

授業評価アンケートは、FD推進部会が実施母体となり、平成17年度後期より全学部・教養教育科目統一で開始されました。当初は、『授業改善に向けて』という冊子を作成し、そこに授業評価アンケートの実施状況・分析、および回収されたすべての「自己点検票」（平成19年度春学期までは「授業改善計画書」）を掲載していまし

たが、平成20年度よりFDニュースレター「特別号」という形で「授業評価アンケート実施状況・分析」および「自己点検票総括」のみを掲載した冊子を発行することにいたしました。更に、前年度の「特別号」からは内容を簡素化し、「授業評価アンケートの実施状況・分析」のみを掲載しております。

なお、「自己点検票」については、大学教育総合センターホームページ上で「自己点検票集録」という形で公開しております（アクセスの方法については、下記をご参照ください）。

### ★自己点検票集録アクセス方法

<http://www.yec.ynu.ac.jp> にアクセスし、トップページの「お知らせ」にある「平成23年度自己点検票集録」を選択し、ユーザー名、パスワードをご入力ください。

ユーザー名、パスワードは全教員共通です。アンケート対象科目の先生方へは別途文書を送付しておりますが、紛失された方、または文書を手に入っていない方は、

教務課大学教育係（TEL.045-339-3107、kyomu.kyoiku@ynu.ac.jp）までご連絡ください。

なお、公開範囲は学内関係者に限定しています。

## 平成23年度 授業評価アンケート実施状況

平成23年度の「学生による授業評価アンケート」は、春学期が平成23年7月6日～27日に、秋学期が平成24年1月10日～2月7日に実施された。

実施対象科目総数は、春学期が1314科目、秋学期が1333科目であった。実施対象科目のうち、実際にアンケートが実施された科目数および実施率を科目区別に【表1】に示す。

なお、平成23年度は新たに理工学部が設置された関係で、同じ講義を工学部と理工学部の両方で開講・履修している科目に関しては、工学部実施分としてカウントしている。よって、工学部実施分には理工学部の学生が履修している科目も多く含まれており、理工学部の実施分は見かけ上少なくなっている。

【表1】科目区別 アンケート実施状況

科目区分	H23 春学期			H23 秋学期		
	対象科目	実施科目	実施率	対象科目	実施科目	実施率
全科目	1314	1018	77.5%	1333	1017	76.3%
教養教育科目	530	448	84.5%	516	440	85.3%
基礎科目(人文社会系)	31	28	90.3%	16	12	75.0%
基礎科目(自然科学系)	35	31	88.6%	30	27	90.0%
現代科目	27	26	96.3%	31	25	80.6%
総合科目	14	13	92.9%	13	12	92.3%
情報リテラシー科目	27	24	88.9%	20	19	95.0%
基礎演習科目	54	38	70.4%	76	54	71.1%
健康スポーツ科目	34	29	85.3%	32	27	84.4%
語学系科目	308	259	84.1%	298	264	88.6%
国際交流科目	16	9	56.3%	14	8	57.1%
国際交流科目(日本語)	24	23	95.8%	30	24	80.0%
教育人間科学部専門科目	270	174	64.4%	280	173	61.8%
経済学部専門科目	20	16	80.0%	34	29	85.3%
経営学部専門科目	42	38	90.5%	31	28	90.3%
経営学部夜間主科目	37	20	54.1%	30	16	53.3%
工学部専門科目	324	267	82.4%	346	278	80.3%
工学部第二部科目	35	9	25.7%	32	3	9.4%
理工学部専門科目	16	14	87.5%	20	18	90.0%

## 科目区分・受講者人数別 集計・分析結果

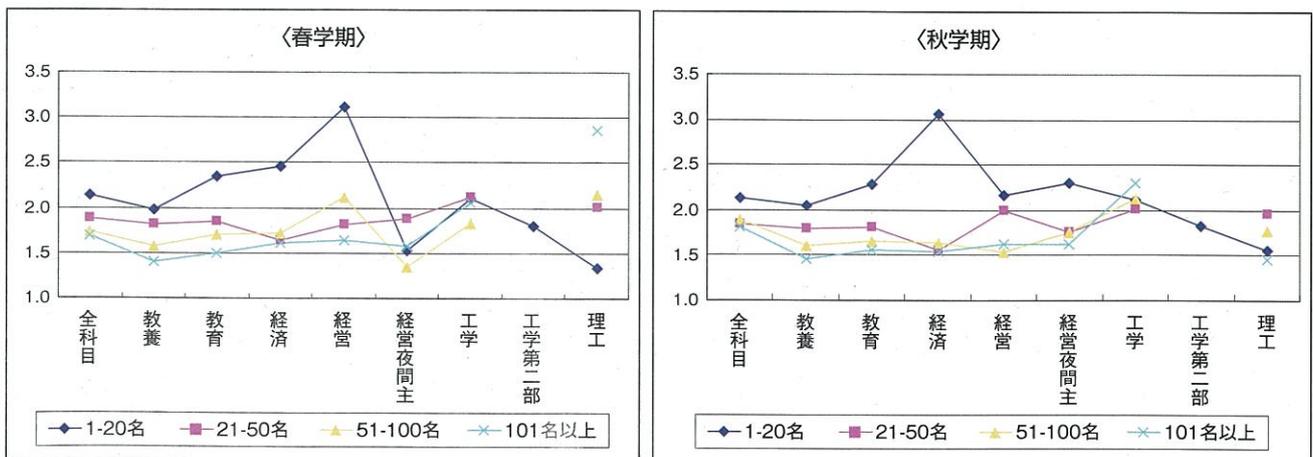
受講者人数によってアンケート結果に大きな違いが見られることから、以下の科目区分別分析では受講者人数を4つのグループ（1～20名、21～50名、51～100名、101名以上）に分けて行った。各科目区分における受講者人数別の回答者数は【表2】の通りである。

【表2】科目区分別×受講者人数別 回答者数

	春 学 期				秋 学 期			
	1-20名	21-50名	51-100名	101名以上	1-20名	21-50名	51-100名	101名以上
全科目	2005	11065	11904	15728	2305	9564	12356	10040
教養教育科目	969	6723	3734	6627	1151	5764	2855	4194
教育人間科学部専門科目	547	1369	1721	1638	635	1191	1848	763
経済学部専門科目	21	11	175	503	25	27	124	1301
経営学部専門科目	17	143	109	2911	6	150	278	936
経営学部夜間主科目	34	306	52	151	34	219	121	77
工学部専門科目	136	2384	5929	3466	142	2052	6722	2712
工学部第二部科目	18	—	—	—	4	—	—	—
理工学部専門科目	55	129	184	432	49	161	408	57

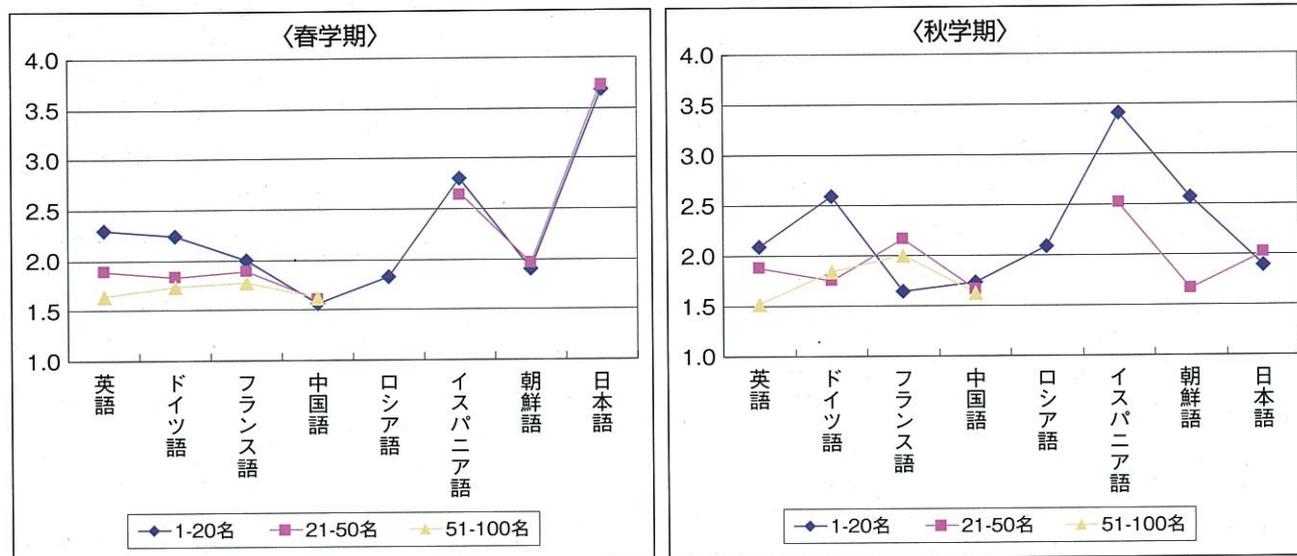
### Q3 授業外学修時間

【図1】は、受講者人数別に各科目区分の授業外学修時間の評定平均値を算出した結果である（4：3時間以上、3：2時間程度、2：1時間程度、1：0～30分程度／1コマ（90分）あたり）。学部によって平均値に顕著な差があることが分かる。特徴としては、工学部・理工学部以外の学部については、1～20名の少人数クラスにおける授業外学習時間がその他のクラスサイズの授業外学修時間よりも長い傾向がみられる（これは、一般的によく言われる傾向である）。一方、工学部については、受講者人数による差はほとんどみられない。理工学部については、春学期の「101名以上」のクラスにおける授業外学習時間がかなり長くなっているが、これは実験の授業が関係していることが考えられる。

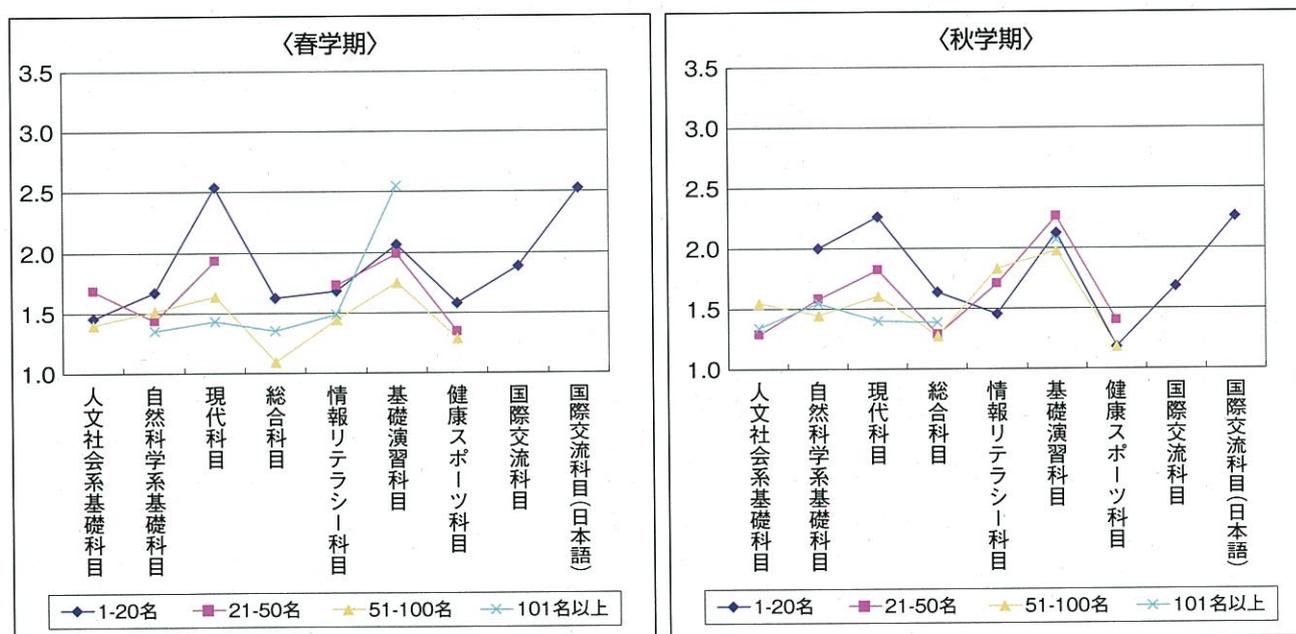


【図1】受講者人数別 授業外学修時間 評定平均値

【図2】、【図3】はQ3の評定平均値を教養教育科目の外国語の科目群と外国語以外の科目群に分けて示したものである。特に外国語科目の場合は、授業時間以外に学生がどれだけ自ら進んで学習するかで修得度が大きく変わってくるが、一部の言語を除いて、全体的に学生の主体的な取組が十分なされていないことがうかがえる。



【図2】受講者人数別 授業外学修時間 評定平均値:教養教育科目(外国語)

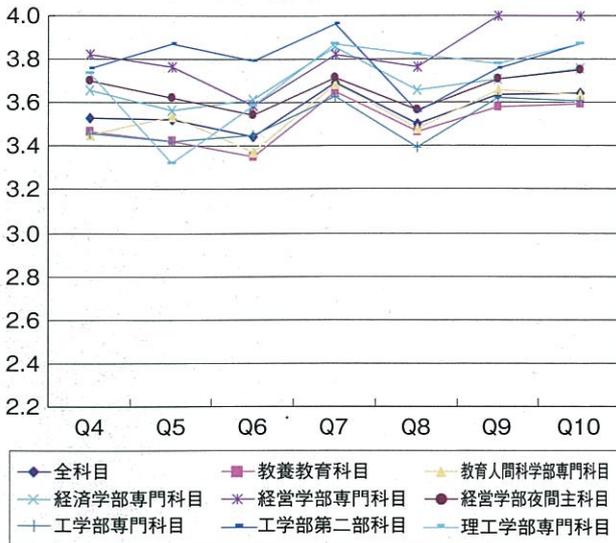


【図3】受講者人数別 授業外学修時間 評定平均値:教養教育科目(外国語以外)

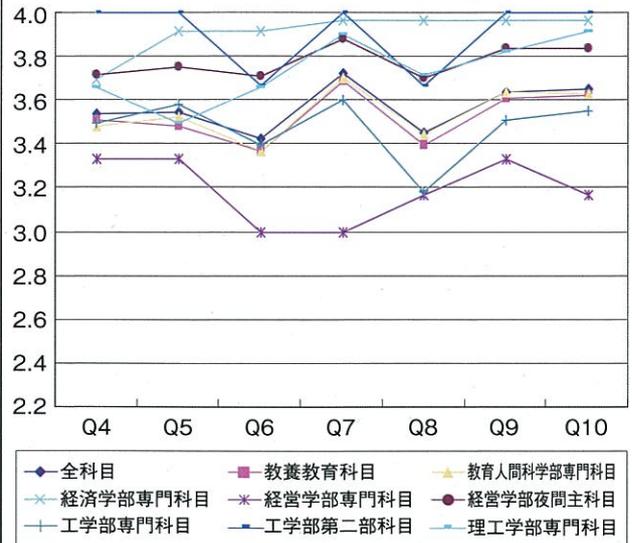
## Q4~Q10 「授業の進め方および内容」と「総合評価」

アンケートのQ4~Q8は教員の「授業の進め方および内容」について様々な角度から尋ねた項目であり、Q9、Q10は授業について「総合評価」をする項目である（Q4~Q10の設問文については7頁を参照）。前年度までは、「授業の進め方および内容」の項目の中に「シラバスに示された内容に従って（沿って）いましたか」という項目が入っていたが、平成23年3月11日に起きた東日本大震災の影響で、特に春学期は授業開始時期が例年より遅れたこともあり、シラバス通りに授業を運営することが難しい状況であったため、平成23年度のアンケートではその項目は削除された。

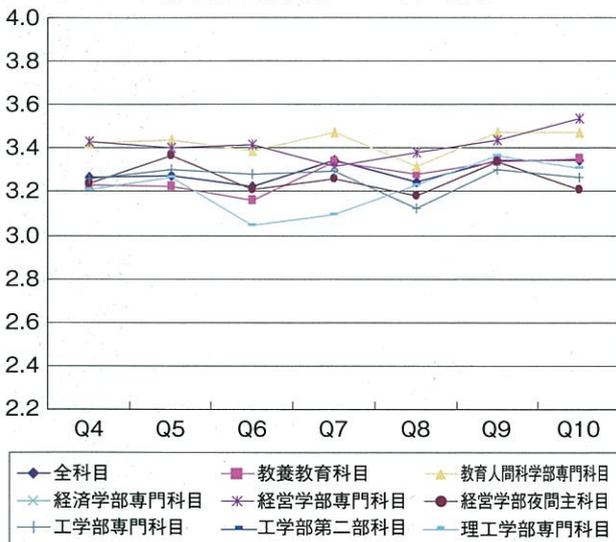
〈春学期:受講者数1-20名の科目〉



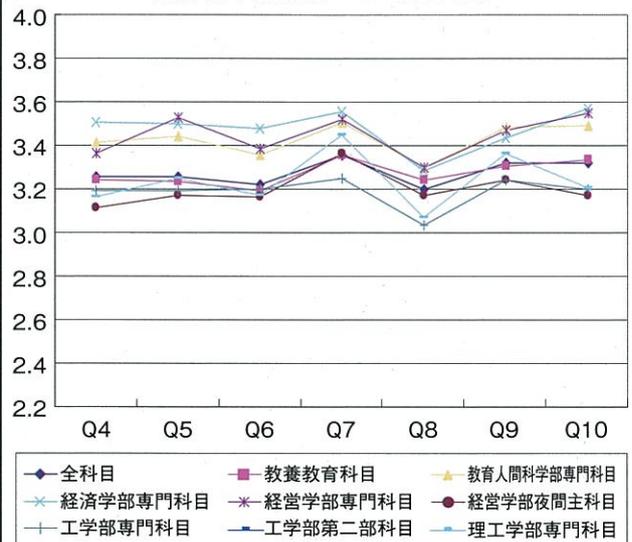
〈秋学期:受講者数1-20名の科目〉



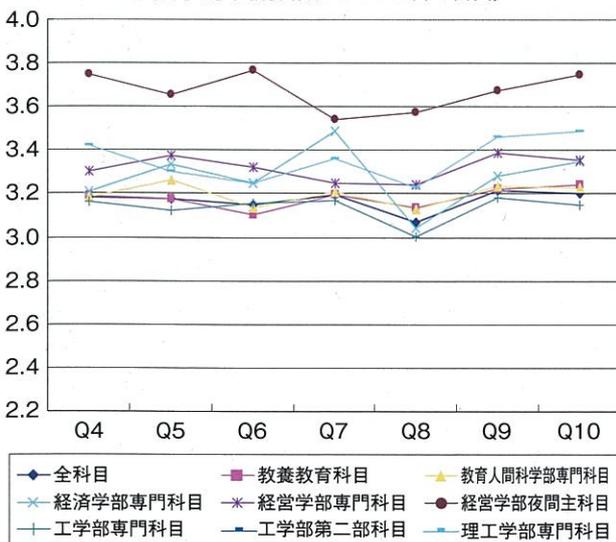
〈春学期:受講者数21-50名の科目〉



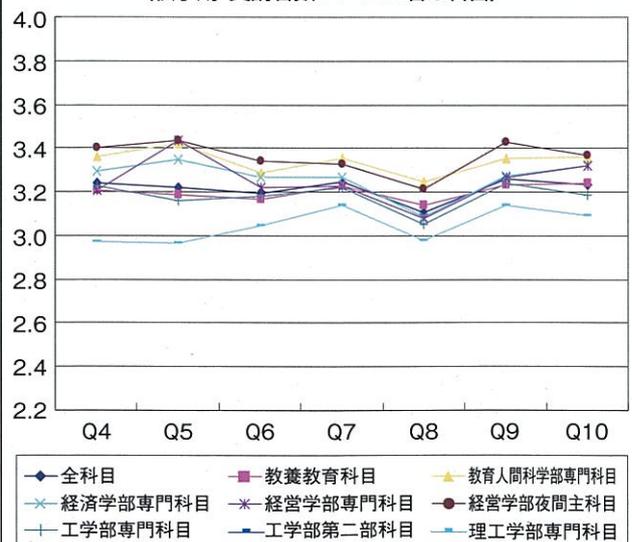
〈秋学期:受講者数21-50名の科目〉

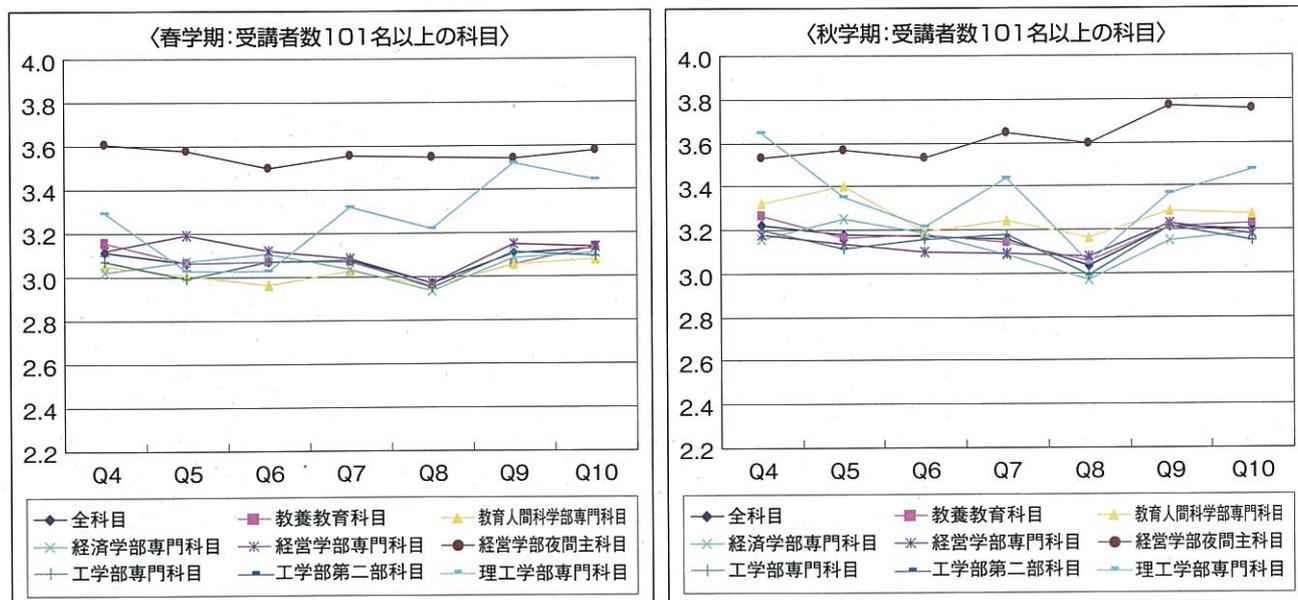


〈春学期:受講者数51-100名の科目〉



〈秋学期:受講者数51-100名の科目〉





【図4】受講者人数別 Q4～Q10 評定平均値

【図4】(5頁～6頁)は、各科目区分のQ4～Q10の評定平均値を受講者人数別に示したものである。例年見られる傾向として、受講者人数が少ないほど評定平均値が全体的に高くなっている。一方、受講者人数や科目区分に関わらず全体的に見られる傾向としては、授業内容の理解度が十分でなくとも(Q8)、授業を通しての知識・技術等の向上(Q9)や満足度(Q10)は高く評価される傾向にある、ということである。特に、「授業内容の理解」と「知識・技術等の向上」との関係性について学生自身がどのように捉えているのか、探るってみるのは興味深い。

ただし、Q4～Q10の結果については一定の考慮が必要である。何故なら、昨年度の「特別号」でも触れたように、すべての項目について同一の評定値をマークしている回答者が少なからずいるからである。これについては、学生の「アンケート疲れ」だけでなく、「アンケートに回答しても、教員は結果を本当に見てくれているのか」、「教員がアンケート結果を授業改善に活かしているのか分からない」といった疑念やアンケートに対する不満が根底にあることは否めない。したがって、アンケート結果をもとに個々の教員が自らの授業を振り返り、必要に応じて改善を行っていくことは無論大切なことではあるが、と同時に、授業評価アンケートそれ自体の改善も急務の課題といえる。

## まとめ

平成23年度の授業評価アンケートの実施率は、春・秋学期共に全体として8割近くとなり、これは例年通りの実施状況であった。設問項目については、前年度から1問削除されたのみで、大きな変更はなかった。

本稿では、科目区分別および受講者人数別の平均値分析を行ったが、いかなる分析を行うにせよ、まずは授業評価アンケート自体が抱える問題を解決しない限り、真に信頼性のある分析結果を導き出すことはできない。そこで、平成23年度は、FD推進部の活動方針の一つとして「授業評価アンケートの抜本的改革」を掲げ、授業改善ワーキング・グループを中心に議論を行った。また、FD推進部会の下部組織である「教育改善学生グループ」が主催したイベント「しゃべり場」(平成23年12月1日開催)では、テーマを「授業評価アンケート革命」とし、教・職・学一体となって真剣な議論を行った。こうした様々な議論の結果をもとに、平成24年度以降の授業評価アンケートをよりよいものにしていきたい。

(資料) 授業評価アンケート設問項目  
**学生による授業評価アンケート**

大学教育総合センター FD推進部では、教育の現状を把握し、今後の授業の質向上に役立てるために、学生による授業評価アンケートを実施します。

科目名

下記の設問について、鉛筆でマークして答えてください。Q1は5項目の中から、Q2～Q14は4段階評価で最も適切な番号1つを選んでください。

**【受講態度について】**

Q1 この授業を選んだ動機は何ですか。以下の中からいくつでも選んでください。

1. シラバス（講義概要）を読んで面白そうだったから 2. 他の人に薦められたから  
 3. 自分の将来（キャリア）に役立つから 4. 必修だから 5. たまたま時間が空いていたから

Q2 この授業にはどの程度出席しましたか。

ほぼすべて出席した 4 3 2 1 ほとんど出席しなかった

Q3 この授業のために平均何時間くらい「時間外学修」をしましたか。一番近い数字を選んでください。

(注)「時間外学修」とは授業時間外の予習・復習・課題への従事等のことです。(本来、単位数はこれらを含めて決められています)

(4. 3時間以上 3. 2時間程度 2. 1時間程度 1. 0～30分程度/1コマ(90分)あたり)

以下Q4からQ14には、下の4段階評価に従って最も適切だと思う番号を下の選択肢欄から1つ選んでください。

(4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない)

**【授業の進め方および内容について】**

Q4 板書や資料提示・デモンストレーション等は良かったですか。 ( 4 3 2 1 )

Q5 授業の理解に役立つ教科書・参考資料・資料などが用意されましたか。 ( 4 3 2 1 )

Q6 シラバスの記述は、分かりやすかったですか。 ( 4 3 2 1 )

Q7 教員は質問やコメントなど、学生の声を聞く機会を設けましたか。 ( 4 3 2 1 )

Q8 授業内容についてどの程度理解できましたか。 ( 4 3 2 1 )

**【総合評価】**

Q9 この授業で考え方・知識・技術などが向上したと思いますか。 ( 4 3 2 1 )

Q10 総合的にこの授業に満足しましたか。 ( 4 3 2 1 )

**【個別質問】**

以下の3問は個別質問です。教員から指示があるときは回答してください。

Q11 ( 4 3 2 1 )

Q12 ( 4 3 2 1 )

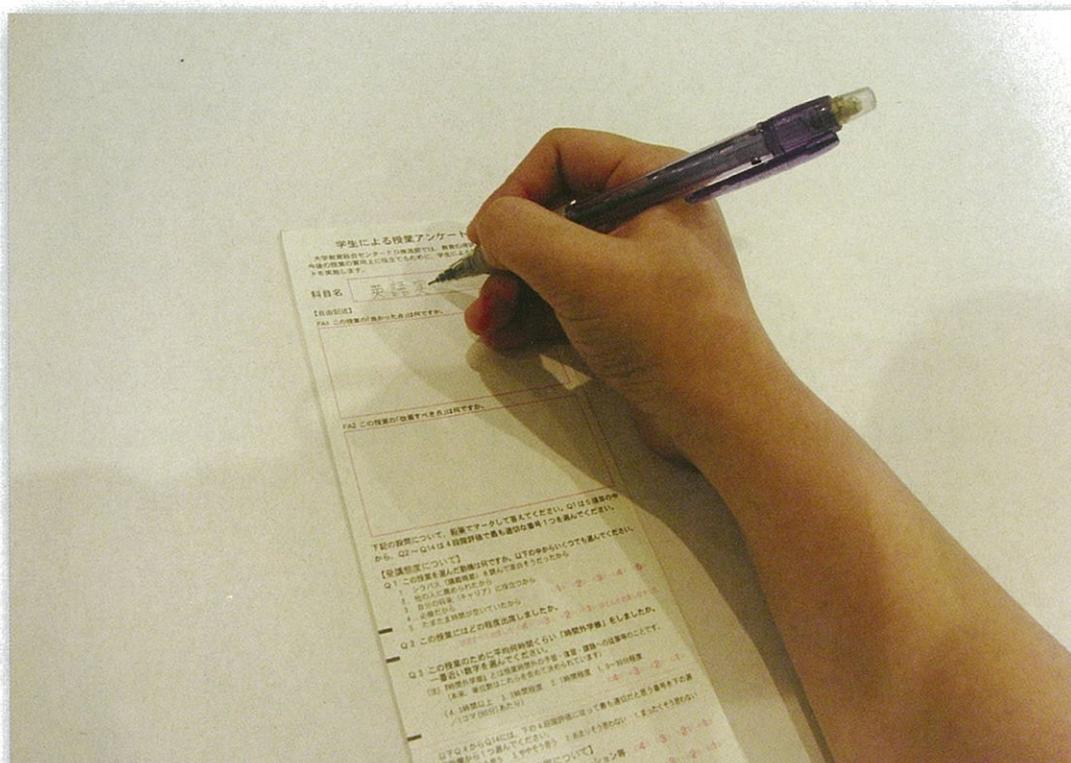
Q13 ( 4 3 2 1 )

Q14 ( 4 3 2 1 )

**【自由記述】**

FA1. 授業内容の理解に困難を生じるところがあった理由は何でしょうか。授業で改善すべき点を簡潔に記述してください。

FA2. FA1の回答以外に何か要望があれば書いてください。



## YNU FDニュースレター 特別号

編集／横浜国立大学 大学教育総合センターFD推進部  
作成担当：ニュースレター・ワーキンググループ  
事務担当：教務課大学教育係  
問合せ先：kyomu.kyoiku@ynu.ac.jp  
発行／平成24年12月

※ご意見・ご感想がありましたら、上記宛までお寄せ下さい。